事例研究発表会　アンケート集計

平成 31 年 2 月 16 日(土)

1.所属はどちらですか？

□訪問看護ステーション･･･58
□医療機関･･･12
□看護学校教員･･･1
□学生･･･0
□ケアマネジャー･･･1
□その他･･･2

2.事例発表の内容はいかがでしたか？

□とても良かった･･･44

港北区医師会の発表がとても良かった。独居の方は最後は病院で、、と思っていたので、訪問看護師さんの力の凄さを実感した。
自立にむけての家族とのかかわり方とか勉強になりました。
同じ様な利用者さんがいるため参考になりました。
１つ１つの事例が心にひびきました。利用者さんの人生や生活を多面からアセスメントされており「よりそう」という言葉がうかびました。
看取り、信頼関係などなど自身の看護に役立つ。
どの内容も日々行っている看護の中での出来事で参考になった。皆様の事例のまとめ方がとてもすばらしかった。
ひとつひとつの症例を掘り下げて考えることの大切さを再認識させてもらいました。
在宅での看取り、アドバンスケア、プランニング等の発表が多く、とても参考になった。
今回の事例の中で、輸液をすることで少し時間を作り、家族の気持ちの整理につながるということを学びました。
どの事例も誠実に利用者さんに向き合い寄り添い、看護やリハビリを提供していることに、感動しました。また自分もそんなすばらしい訪問看護の世界に身を置いている喜びを感じた。

□良かった･･･27

訪問看護に携わってまだ期間が浅く、発表の様な事例に関わる事がなかったため、とても参考になり興味深かった。
事例自体は現在の利用者とは一致しないが、すべての内容がこれからの看護を考える上で、参考になった。
丁寧に実践を振り返りにまとめられていて、良い看護実践と事例研究にまとめたことと、発表者の方のがんばりがすばらしいと思いました。
現在の訪問看護の実際を、様々な症例を通し大切を痛感した。
難しいケースが増えてきているので、他の方の関わりは参考になった。

□普通･･･2
□あまり良くなかった･･･0
□良くなかった･･･0

3.日々の活動に役立ちますか？
□とても役立つ･･･32
死への恐怖、いつまでも生きていてほしい、家族の気持ちに少しでも寄りそうことが、できると思います。
訪看の皆さまの看護力を学ぶことで「在宅は無理」と決めつけず、「どうしたら可能になるか」と相談させていただく事が大事だと思うことができました。
同じようなケースに関わる際は、今回の学びを活用したいと思う。
チームでアプローチ、信頼関係の重要性が改めて認識できました。
５つの事例発表を聞き、日々の自分の訪問を振り返ることが出来、今後も頑張ろう、良い看護を提供出来るよう学びを深めて行きたいと感じました。
訪問看護は素晴らしいと改めて強く思いました。
利用者さんの気持ち、思いによりそう！
1 年後､訪問 Ns として､スタートしようとしている私には現状を知れる良い機会となった。

□役立つ･･･40
家族との関わりが本人(利用者)との信頼関係につながり、その後のケアにも大きく影響すると感じた。
日々の訪問の振り返り、明日からの業務の活力になった。
具体的なケアやアプローチをどうしたか良いかも聞けて、今後のケアに生かしていけたらと思っています。
アプローチ方法の一つとして実際にためしてみようと思いました。
虐待の事例発表内容を聞き、今私も認知症の妻を介護する夫が暴言、暴力が日常的にあり、CM､デイサービス､ヘルパーを連携し､虐待の現状を改善できるように日々考えています。
傾聴していく中で、私の思いが強く出てしまっている事にはっと気づく事ができました。
どうしてそういう行動になってしまうのか、しっかりアセスメントしていきたいと思った。
虐待の発見⇔介護者の心理状態の把握が第一。看護研究発表を聞く事で'看護'とは考えるきっかけに必ずなると思う。
身近なケースが多く、自分の悩んでいる所は他の皆さんも悩み、それに対して解決のアプローチは、とても学ぶ事が多く良かったです。
在宅支援や連携方法を施設介護に取り入れて行きたいと思います。
認知症を支える家族の虐待の関わり方や療養者さんとの関わりについて、日々の訪問でも参考となる内容でいかしたいと思いました。
講評がとてもすばらしく、改めて深く考えさせられました。

□普通･･･1
□余り役立たない･･･0
□役立たない･･･0

4.医療機関の方、ケアマネジャーの方にお聞きします

訪問看護の理解は深まりましたか？

□とても深まった･･･22

とても身近に感じた。病院の Ns とは違う役割りがあるのがわかった。
目に見える患部へのケアだけでなく、心のケア、家族との信頼関係の上、支えていくナースは、すごいと思います。
多くの病院スタッフが訪看の活動を学ぶことの必要性を強く感じました。このような機会をいかに病院スタッフに参加させるか考えたいと思います。
訪問看護師が生活者(患者)に寄り添い、どのような生活をしたいかのニーズを確認しながら、ケアしている様子がわかる研究発表でした。
病院看護師としては、地域の訪問看護師、ケアマネージャーとつながり、生活者の方の想いを、共にサポートできるようになりたいと切に思いました。

□深まった･･･12

一人では難しいケースでも、チームで取り組む事で解決できる事も増えると感じた。特に、一人の利用者に対し、地域や他事業所との連携もチームという考えにつながると日々思う。
限られた利用の中で一人の利用者、家族に対する訪問看護の役割りは大きい。支援してゆく上でステーション内の意見交換の場でも‘看護観’が大きく影響するのではないかと、思われる。
様々な場面やライフステージにおける丁寧な支援に感動しました。
看取りの時期のリハビリの重要性を認識できました。

□普通･･･1

□余り理解出来なかった･･･0

□理解出来なかった･･･0

5.全体及び各演題に対してのご意見、ご感想を自由にご記載ください

貴重な報告を聞く事ができてよかったです。
日々、忙しい中での研究大変だったと思いますが、とても良い発表でした。
「成人期重症心身障害者の移行期に求められるもの」の発表から、自己決定の意思が、確認できなこと、兄弟の支援の面なども含め看護師だけでなく、様々な支援が対悦だと、改めて感じました。又、入所されてからも、ご家族はたくさんの思いを抱えられることもあると思いました。継続した支援も重要なのかと思いました。様々なケースから学ぶ機会となりました。
発表者の方々、山本先生の講評、とてもわかりやすかったです。一事例ずつ深く看護ケアを、振り返ることの重要性を改めて考えさせられました。
自宅で最期を看取る取組みに感動しました。チームケアとして逃げずに支え続けることが必要なんだと勉強になりました。

時間を守って欲しい。司会担当の方がカミカミで練習不足を感じた。
これからも続けてほしいと思います。
今年は特にチームアプローチによる在宅ケアのすばらしさを学ぶことができました。そのチームの一員となれるように病院ナースをして努力していきたいと思います。多くの学びをありがとうございました。
講評が長すぎると思います。
他事業所が実践している看護の現状を知る事ができて勉強になりました。
全体的に信頼関係をきずく事からすべては始まっているため、コミュニケーションスキルをあげていきたいと思いました。
毎年勉強になります。他のステーションのがんばりを聞いてまた今年一年がんばります。
立場の違いで心の動きが変わっていく事を知りよりそいたいと思えました。
訪問看護の実際がわかり理解が深まった。病院から地域へ地域から病院へスムーズな連携ができ、患者さん家族がのぞむ生活がおくれると良いと思った。
虐待介護者と要介護の支援こそ在宅医療チームの役割だと思った。
疼痛コントロールの対応方法としてリハビリ効果(触れる)が大きいということを考えさせられた。
独居老人が自宅で最期を迎えることが再度決意し、看護師、スタッフに生活、病状をフォローされるまでの心理的変化がもう少し知りたかった。
ケース以外、統計や地域看護、連携について研究発表会があるといいですね。
訪問看護の役割りと重要性が深まります。新たな取り組みの必要性を学びました。
訪問看護師さんが日々悩み考え、そして喜びを利用者さんご家族から感じているんだと、改めて思いました。訪問看護師として働けることをほこりに思います。
看護を振りかえることが次の看護につながるのでとてもよい学びとなりました。
⑤の事例発表がわかりやすかった。
地域包括ケアシステムの中の一つの資源である病院で働く Ns として、訪問看護の、皆さんの活動を知る機会を毎年提供していただきありがとうございます。
定刻になったら、何らかのアナウンスをしてほしい。ザワザワしている時間があり、もったいないと思います。
山本先生の講評に心を打たれました。‘本人がわからない様なニーズを引き出す看護の力‘をこれから深めて行きたいと思いました。

会員　65
病院　14
役員　10